（報道資料）　　２００４年９月２５日
ＮＨＫ広報局

ＡＢＵアルマトイ総会全体会議開幕

ＡＢＵ・アジア太平洋放送連合の第４１回総会の全体会議が、きょう（２５日）から、カザフスタンのアルマトイで始まりました。この会議に、ＮＨＫからは、ＡＢＵ会長を務める海老沢会長や、国際担当役員の諸星理事らが出席し、２７日まで３日間、様々な課題について討議が行われます。

開会式では、海老沢会長が挨拶し、「今や、人類が放送を通じて、お互いの異なる文化を理解し、多様な価値観を尊重する社会を作ることが出来る環境が整ってきました。放送に携わるものの使命は、世界的な広い視点と高い志をもち、２１世紀の新しい時代に相応しい放送文化を創造することです。“文明間の懸け橋”とも言える放送の重要な役割を積極的に果たしていきたい」と述べ、放送のデジタル化時代を迎えて、ＡＢＵ加盟の各放送機関が、技術的な支援や番組の共同制作などを通して、より一層、協力関係を強めていくよう呼びかけました。

総会全体会議の主な議題は、下記の通りです。

＜ＡＢＵ未来への航海＞

これは、去年の夏ＮＨＫが行ったテレビ放送５０年事業「未来への航海」を、ＡＢＵの新しい国際教育イベントとして発展させるもので、総会に伴って開かれた番組委員会で正式に承認されたことが報告されます。

「ＡＢＵ未来への航海」では、船を使わず、２年に一度、地球環境の今を学ぶのにふさわしいアジア太平洋地域の「森」「海」「砂漠」を、アジア各国の子どもたちが訪ねる計画です。第１回となる来年夏の「マレーシア・ボルネオ島の森林」では、島や森林に生きる多様な生命と自然保護を学習します。また、２００７年に第２回として、「南太平洋の珊瑚環礁」で地球温暖化防止の学習を実施することも検討されます。

「ＡＢＵ未来への航海」が、「ＡＢＵロボットコンテスト」（第３回大会が９月１１日韓国・ソウルで開催）に次いで、国際教育イベントとして成功し、ＡＢＵと加盟各放送局が放送を通じた教育への一層の貢献を果たすことが期待されます。

＜ＡＢＵ賞＞
ＡＢＵ賞は、ＡＢＵ加盟の放送機関が制作・出品したテレビ、ラジオ番組のうち、優れた作品に贈られるものです。放送を取り巻く環境が大きく変わる中、ＡＢＵ地域の放送文化の向上により一層貢献することを目指して、今年から、テレビ、ラジオそれぞれの部門の見直しが行われたほか、恵まれない条件にも関わらず優れた番組を制作した発展途上国のプロデューサーを対象に、「審査員特別賞」が新設されました。こうした改革を反映して、今年のＡＢＵ賞には、テレビ、ラジオあわせて、５２の放送機関から、去年より５０作品も多い、１６３の番組が寄せられています。

今年の受賞作品は、日本時間のきょう２５日夜に発表されます。

＜パネル・ディスカッション＞
総会全体会議二日目の２６日に行われるパネル・ディスカッションでは、「ニューメディアで変化する非課金放送事業者の役割」をテーマに、テレビを見る人から料金を取って放送する業者の台頭、ソフトをめぐる競争、財源の確保など、新しいメディア環境の中で、公共放送が果たすべき役割と公共放送が抱える諸問題にどう対処していくか、会員の経験談も交えながら議論します。

＜アテネ五輪対応＞
今回のアテネオリンピックについては、放送権をＡＢＵとして一括で取得し、２２カ国・地域に、あわせて３５００時間にも及ぶ中継映像やハイライト番組を配信しました。途上国に対する放送支援が、ＡＢＵ地域全体の放送の発展に資するとの立場から、北朝鮮、アフガニスタン、東チモール、ラオスには無償で提供しました。

＊ ＡＢＵは、政治的・商業的な目的を持たず、アジア太平洋地域の放送の発展を図るために協力する放送機関の連合体。１９６４年に発足し、ニュース交換（アジアビジョン）、番組交換、スポーツ放送権交渉、ＡＢＵ賞番組コンクール、技術情報交換、発展途上国会員への助言サービスなどを実施している。現在、５３カ国・地域の１０３機関が加盟している。

なお、会場のホテルには、総会期間中、ＮＨＫハイビジョン映像の紹介も行なわれ、カザフスタンの秘宝のほか、ＡＢＵ地域のデジタル放送事情をまとめたビデオなどが上映されています。